

令和 4 年度 公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館事業報告書

実施事業(総事業費 172,425 千円)

当年度の成果と展望

(1) コロナ禍における事業と利用者数の回復

当年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響を受けた一年間でしたが、影響は前年度ほどではなく、社会環境を含め館を取り巻く状況は時とともに改善しつつあります。主催事業については、規模の縮小を継続し、十分なソーシャルディスタンスを維持するため、いべんとほーるでの開催時には最大でも 100 名未満、工作などの小人数参加型イベントでもコロナ以前の半分以下の定員とするなどの感染防止対策を取りました。「ふるさと専門高校フェスタ」など 2 事業は中止せざるを得なかったものの、概ね事業計画どおりの事業が実施できました。

利用者に関しては、夏休みシーズンと重なった第 7 波や、年末年始がピークとなった第 8 波の影響を受けながらも 76,585 人(前年度 56,126 人、36%増)を記録し、コロナ以前の約 63.8%まで回復しています。また、これに伴い入館料収益は 11,414 千円(同 7,588 千円 50.4%増)、文化事業収益全体でも 15,741 千円(同 10,487 千円、50.1%増)となるなど、状況の好転が鮮明になってきました。

(2) 為替レートとウクライナ情勢がもたらす施設管理コストの高騰

円安やウクライナ情勢などによる石炭や液化天然ガスの輸入価格高騰の影響により電気・ガス料金ともに値上がりが続いたため、施設管理コストが大幅に増加しました。電気・ガス料金ともに年度末に至ってやや落ち着いたものの、光熱水費全体では 24,572 千円(同 17,408 千円、41%増)となりました。これに対し、県市からそれぞれ光熱費の高騰対策として 400 万円超の指定管理料の増額を受けたため、法人の財政面への直接的な影響はありませんでした。

また、施設設備の老朽化に伴い修繕費も嵩み、施設管理費全体では 75,749 千円(同 66,489 千円、14%増)となっています。これらの結果、施設管理費、事業費ともに増加し、法人としての総事業費は 172,425 千円(同 155,535 千円)となりました。

(3) 文化事業と新たな取り組み

主な事業として、7 月には開館 27 周年事業として(株)コクヨ MVP(鳥取市)との共催による「クレヨンらくがき体験」を 2 日間にわたって開催しました。先着 100 名にはクレヨンのプレゼントもあり、両日とも開館前から待機列ができるほどの盛況となりました。

調査研究、資料収集部門での大きな成果として、童謡館とおもちゃ館の収蔵資料のオンライン公開に向け、それぞれの収集資料のデータベースを統合しました。令和 5 年 4 月からはホームページ上での一般公開も始まり、一部準備中の資料を除き、誰もが収蔵資料を検索できる状態になっています。

また、令和 4 年 7 月にはオンラインによるイベントの予約管理システムを導入し、予約制のイベントの大半が 24 時間 WEB で受け付け可能になりました。

1. 童謡唱歌に関する事業(公益目的事業1 事業費 83,072 千円)

童謡・唱歌の普及啓発を図るため、次の3つを柱とした事業を行いました。

- (1) 童謡唱歌体験事業
- (2) 調査研究、資料収集事業
- (3) 展示事業

童謡・唱歌に関する事業では、参加者同士の距離を確保できる鳥取市民会館を会場に選び、この 3 月に「バイビーブー&ともしびうたごえコンサート」を開催しました。歌詞を見ながら皆で歌う場面もあり 230 名の参加がありました。

2. おもちゃに関する事業(公益目的事業2 事業費 80,698 千円)

おもちゃ文化の普及啓発を図るため、次の3つを柱とした事業を行いました。

- (1) おもちゃ文化体験事業
- (2) 調査研究、資料収集事業
- (3) 展示事業

おもちゃに関する事業では、2 月に県内の人形芝居の伝統を受け継ぐ三座が一堂に集う「人形芝居三座合同公演 in わらべ館 2023」を 2 年振りに開催しました。今年度は新たに円通寺人形芝居保存会から指導を受ける市立倉田小学校でこクラブに出演を依頼し、小学生 4 名による人形操演が好評を博しました。

3. 法人管理事業(管理事業 事業費 8,655 千円)

定時評議員会のほか、理事会を 4 回開催しました。事業計画書や財務諸表等を WEB サイト上で公開し、公益法人として透明性のある法人運営に努めました。オンラインによる利用者アンケートを初めて通年で実施しました。